

## 第6回大きな輪となれジョイントコンサート

### 取組に至る背景・事業の目的

地域の合唱団及び地元の学生・生徒がプロの演奏家と共に、「大きな輪となれジョイントコンサート」を開催することにより、佐久地域の音楽文化に対する理解を深め裾野を広げていくこと、創作活動を通して芸術文化活動を担う人材を育成すること、地域の芸術文化活動を担っている多くの地域住民の協力を得ながら地域の文化力を発展させ、もって地域の活性化を図ることを目的としている。

### 事業内容

地域の合唱団、地元の学生・生徒がプロの演奏家とともにコンサートを開催した。学生・生徒には事前のクリニック（演奏指導）などで芸術文化の創造活動を担う人材の育成を図った。創造の喜びと到達感を共有し、多くの聴衆に感動を与え聴衆も一体になったコンサートを実施したことにより、音楽文化を通して地域の元気づくり大きく貢献することができた。



【総勢 268 名出演者による演奏会の様子】

- ・クリニックの実施 6月～12月 計9日
- ・コンサートの開催 12月10日 佐久市コスモホール

### 事業効果

- 演奏・合唱者数 268 名、聴衆 800 名が参加し、全員が一体化された演奏会になり感動が共有された。
- クリニックは計9日、生徒数延 380 名が指導を受け、参加者の演奏は高い水準になり、聴衆に深い感動を与えた。
- 少年少女合唱団は結成3年目 34 名の参加を得た。少年少女が参加したプログラムはとりわけ好評だった。
- 多くの関係者が参画した演奏会になり、地域の人々の関心の輪を広げることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

演奏会には、地域の教育界・行政・議会関係者が多数参加し、高い評価を得た。聴衆のアンケート結果からは引き続き発展していくことへの期待をいただいた。聴衆をはじめ多くの関係者の協力を得て、より一層「大きな輪」の形成に取り組んでいく。

#### 【選定のポイント】

コンサートは、多くの関係者が参画した演奏会となり、地域の人々の関心が集まった。またクリニックや少年少女合唱団の活動などの育成にも繋がった。地域の音楽文化の振興に大きく寄与した活動であり、人材の育成など今後の発展も期待できる取組となった。

団体名	大きな輪となれジョイントコンサート 実行委員会（佐久市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	長野県佐久創造館内 0267-68-2811	事業費	5,217,967円
ホームページ	<a href="http://www.sakusouzoukan.com/">http://www.sakusouzoukan.com/</a>	支援金額	3,000,000円

## 「寅さん全作フィルムで観よう会」

### 取組に至る背景・事業の目的

小諸が第40作のロケ地となった「男はつらいよ」シリーズのフィルム上映会の活動を通じて、寅さんの魅力を発信し、小諸市や長野県の魅力をPRし、観光客の誘致及び寅さんを活かしたまちづくり活動をしている。

特に若い方に寅さんを知っていただき、寅さんの素晴らしさや映画の魅力を言い伝え残していくことを目的として活動している。

### 事業内容

平成29年度は、5、8、11月の第二土曜日14時よりと18時の2回、「男はつらいよ」を上映した。全48作のフィルムによる上映を平成26年より開始し、平成29年11月上映分で第36作目となった。

8月12日の献花式においては、大勢のファンの方のご列席をいただき盛大に行う事が出来た。

平成29年度の特徴は上映の合間に「ファンミーティング」を行ったことであった。映画を観終わった後の余韻を共有し、元松竹衣装係の本間邦人さんや茨城県の寅さんそっくりさんの植木寅治郎さんをお迎えしてのトークショーやスタッフでしか知らないような裏の話、思い出のお話、エピソードをたくさん聞く事が出来た。



【手作りの上映会の様子】

### 事業効果

平成29年度も14時からと18時からの2回の上映を行ったが、5月は33人(29人と4人)、8月は40人(34人と6人)だったが、11月は95人(84人と11人)というこの上映を始めて36作にして、最高の入場者数を記録する事が出来た。

2回の上映会の間に行ったファンミーティングも、写真のように自分たちのお宝や、思い出のエピソードや「男はつらいよ」の映画が好きになったお話をして頂いた。

固定のお客さんも50-60人おり、毎回参加していただくというわけにはいかないが、友達を連れて来ていただくこともあった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ここまで「男はつらいよ」の上映を続けることが出来たが、残り12の作品を急いで行うのではなく、3年かけて、毎年4作品ずつ内容を充実させて上映会を行う事にしている。平成29年度企画したファンミーティングは、とても好評だったので、これからも、小諸市と渥美清さんの結びつきを披露するために、小諸市民やファンの持っているお宝にまつわるお話をして頂く企画を行い続ける事で、渥美清さんの思いを、いつまでも忘れない活動に取り組んでいく。

#### 【選定のポイント】

映画「男はつらいよ」シリーズのフィルム上映会を開催し、上映の合間にファンミーティングを行い、活動が定着した。今後も、映画と小諸市民の結びつきを発信していく企画でシリーズ作品を上映することを計画しており、映画を活かしたまちづくり活動の長期間にわたる取組が期待できる。

団体名	コモロ寅さんプロジェクト 『いつもココロに寅さんを♪』(小諸市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	070-3181-5463	事業費	1,325,262円
ホームページ	<a href="https://www.facebook.com/kokoronitorasan">https://www.facebook.com/kokoronitorasan</a>	支援金額	975,000円

## 雷電為右衛門生誕 250 周年記念 どんどこ巨大紙相撲大会

### 取組に至る背景・事業の目的

東御市は、史上最強の力士と名高い雷電為右衛門の生誕地であるが、これまで雷電の顕彰活動は一部の人たちによってしか行われずにいた。平成 29 年は雷電の生誕 250 年にあたるため、当事業を通じて同市の大きな歴史的・文化遺産としての認識をさらに広める。

### 事業内容

- ① 巨大紙力士制作ワークショップ (10/14、10/15)  
家族、学校のクラス、企業、地域住民の団体、高齢者施設などがチームを組んで、雷電為右衛門と同じ身長 197 センチの紙力士を制作した。
- ② 巨大紙相撲大会 (11/11)  
土俵、吊り屋根のほか、行司、審判、呼び出し、部屋割りなど、できる限り大相撲を模して開催し、ワークショップで制作した紙力士の取組を行った。



【相撲大会 白熱する会場の様子】

### 事業効果

- ・これまで、雷電に対する市民意識が低かったことから、顕彰活動もなかなか光があたりなかったが、市民には雷電の存在がより身近になった。
- ・多くのマスコミにより取り上げられたことによって、県内外に東御市と雷電為右衛門をPRすることができた。
- ・ワークショップには 190 人、相撲大会には出場者、見学者を合わせて 450 人が参加し、世代や様々な立場、役割を超えた市民交流と一体感を創出することができた。
- ・商工会や商店、企業、団体からの運営協力や景品協賛などが多数得られた。
- ・文化芸術が地域の課題を解決するための大きな力の 1 つであることを理解してもらった。
- ・子どもたちに雷電の存在や、相撲の伝統礼節を伝えることができ、また制作や大会参加を通じて、他者とのコミュニケーションを行いながら、協力して創りあげることを体験させることができた。
- ・子どもたちも紙力士の制作から大会、神社への奉納までのプロセスに継続的に関わることで、単なる参加者ではなく地域社会における重要な一員であることを味合わせることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・取組数や景品の配分等について、次回は参加者へのアンケートを実施し、運営に反映させる。
- ・小学校と連携を図り、雷電学習、ちゃんこ鍋調理実習なども設け、一環した郷土学習に繋げる。
- ・実動人員が少なく苦労した反省点を活かし、雷電の顕彰活動に熱心な団体に事業を引き継ぎ、より多くの参加、協力を募っていく。
- ・いずれは、大会の開催地域を増やし、事業のすそ野を広げていきたい。

#### 【選定のポイント】

紙相撲力士の制作から大会の開催まで、子どもから大人までの多くの住民等が参加し、地域に活気を生み出すことができた。また、企業の協賛・協力も得られていることから事業の継続が見込まれ、今後も地域に根付いた取組となることが期待される。

団体名	丸山晚霞記念館協力会 (東御市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	会長 柳沢 正和 0268-62-3700	事業費	597,612円
メールアドレス	Doragon.fry9@gmail.com	支援金額	478,000円

## 小泉山体験の森 整備事業

### 取組に至る背景・事業の目的

小泉山体験の森創造委員会では、平成14年から身近な里山である「小泉山」の整備活動（遊歩み道・登り口）をはじめ、子どもたちを中心とした自然体験学習のサポート活動を行ってきた。また、平成17年度からは魅力ある体験の森にするため、本格的な活用及び維持管理事業に努めてきた。多くの方にこの体験の森を安全に安心して活用していただくためには、登山口をはじめ、遊歩道や山頂部の整備や草刈りなどは欠かすことができない。特に近年は、雨水による登山道や木製階段の傷み、看板の老朽化が進んでいた。そのため、平成29年度より3か年計画でリニューアル整備を行うこととなり、初年度として、駐車場看板6基、案内看板4基、由来看板1基、中沢登山口の工事を行った。老朽化で見にくくなっていた看板をリニューアルすることで、利用者に気持ちよく利用していただくとともに、地域の皆さんにも整備に参加していただき、身近な里山を守っていく意思確認をする機会となるよう企画した。

### 事業内容

小泉山体験の森創造委員会では、小泉山周辺の地域住民や学校関係者、行政が協働して小泉山の整備・活用に取り組んでいる。今後も継続して、地域の子もたちが自然体験学習をしたり、親子や地域のふれあいの場、憩いの場として活用してもらえるよう、できるだけ多くの地域住民や子どもたちに小泉山や活動内容を知ってもらう機会を作る。

- ・10月10日 二本松由来看板設置 10名参加
- ・10月18日～30日 駐車場、案内看板設置 8名参加
- ・11月16日 中沢口登山道整備 5名参加
- ・11月23日 栗沢口駐車場、案内看板設置 20名参加



【中沢口案内看板設置の様子】

### 事業効果

- ・「看板がきれいになって見やすくなった」という声が聞かれた。中沢口からは毎年保育園児が登山で利用するため、水切り工事により、雨水による登山道の傷みが無くなった。
- ・創造委員以外の地域住民に整備に参加してもらい、小泉山に興味を持ってもらうことができた。保育園児や小学生にも参加してもらえた。
- ・公民館の行事として、小泉山登山を行った区が3区あった。オオムラサキの保護活動や観察に協力する学校が1校増加した。小泉山を登山で活用する保育園が2園増加した。
- ・オオムラサキ保護活動や課外学習で小泉山を活用する学校やクラスが増えており、歩きやすい登山道と見やすい看板の整備により、安全に配慮することができる。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

小泉山の存在は知っているが実際に登ったことのない地域の方や子どもたち、小泉山体験の森創造委員会の活動について知らなかった方に参加してもらうことを企画したが、雨天により作業ができず、その後の日程調整が難しくなり、子どもの参加が少なかった。

小泉山で体験したことが子どもたちの心に残るよう、引き続き小泉山の整備や様々な活動、イベントを主催していきたい。来年度以降も、地域住民、学校関係者や行政と協働し、整備活動やオオムラサキの保護活動など継続して行っていく。

#### 【選定のポイント】

地域のシンボルである小泉山を地域住民と協働で整備し、公民館や学校の行事に活用できる場を作ることにより、地域に広がる形での世代間交流の促進・環境整備が期待される。

団体名 小泉山体験の森創造委員会（茅野市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先 TEL 0266-72-2101（内線 634）	事業費	1,698,408円
ホームページ <a href="http://www.city.chino.lg.jp/">http://www.city.chino.lg.jp/</a>	支援金額	1,132,000円
メールアドレス shogaigakushu@city.chino.lg.jp		

## 山浦民謡ナンバ踊り普及継承事業

### 取組に至る背景・事業の目的

蓼科山から八ヶ岳の山麓 茅野・原村・富士見に昔から伝わっている民謡や踊りは伝統芸能として価値あるものである。だが今ではほとんど唄われることがなく、地区に盆踊りもなく踊り継がれてもいない。

そこで、これらを平成2年頃より掘り起し、採譜・編曲し、平成25年までに12曲をまとめた。しかし、資料として残すだけでなく実際に唄い踊り継ぐことにより次の世代に承継するため、また邦楽教育のため、平成25年7月にかんてん蔵の前の広場で盆踊りを始めた。

### 事業内容

- ① 茅野市宮川のかんてん蔵で開催されたイベント“くらの市と村祭り”において、やぐらを組み提灯の下での盆踊りを実施（7月22日）
- ② 富士見乙事キャンプ場利用者と踊りの体験（8月26日）
- ③ かんてん蔵で三味線と唄と踊りの練習（毎月18日、一般参加可）
- ④ 毎月第2第4木曜日に踊りの練習
- ⑤ 発表会における踊りの披露（10月26日・茅野市民館）



【かんてん蔵盆踊り】

### 事業効果

#### 【①・② 踊りの体験】

イベント“くらの市と村祭り”と一緒にを行うことにより、多くの若者に参加してもらい、交流を図ることができた（参加者は120名位）。

また、富士見乙事キャンプ場には全国からたくさんの家族連れや若者が来ていて、輪になって踊ることやリズムが新鮮なことが若者に受け入れられ、約80人が入れ代わり立ち代わり踊り、楽しんでもらうことができた。

どちらの会場も若者が集まる場所で行ったことで、昔を懐かしく思い踊る人に加え、多くの若者にも楽しんでもらえた。「又来年も楽しみにしている」とうれしい言葉を頂いた。

盆踊りという場を通して老人も若者も年齢に関係なく一緒に楽しむことができ、多世代交流の場とすることができた。

#### 【③・④・⑤ 踊りの練習】

新たに三味線を習いたい3人、唄を習いたい2人が練習を始めるなど、次世代への継承を図ることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- これからも、くらの市と村祭りとの連携をしっかりととして、踊りを広めていきたい。
- 保育園・学校等ポスターやチラシで働きかけたが参加が難しかったので、他の方法を考えていきたい。
- 山浦ナンバ踊りは見てもらうのではなく一緒に踊って楽しんでもらいたいので、集客のためのPR方法を工夫したい。

#### 【選定のポイント】

伝統的な民謡・踊りを掘り起こし、多世代交流を図るとともに、住民と観光客が踊りを体験する機会を創出することにより、伝統芸能の継承および地域の活性化が期待される。

団体名	山浦民謡踊り保存連盟（茅野市）	事業タイプ	ソフト事業
電話	0266-72-6803	事業費	888,490円
		支援金額	657,000円

## 自然資源を使って、生きがいの中に伝統文化を継承する

### 取組に至る背景・事業の目的

飯田市南信濃地区で伝承されていた山藤を使った伝統工芸は昭和初期に途絶えてしまっていたが、地元シニア世代と協働してその伝統文化の再生・伝承活動に取り組み、藤づるや藤糸を材料にした工芸品づくりの体験者の受入を行ってきた。3年間の活動を踏まえ、滞在型体験観光の定着及び団体観光客の受入体制整備、小学生への伝承活動を実施した。

### 事業内容

- 1 日帰り温泉＋体験、農家民泊滞在型観光による体験  
藤づる工芸や藤糸織りの体験と民泊をセットにした滞在型観光や、周辺散策を組み合わせた周遊観光を実施した。
- 2 グループや団体観光客に向けた情報発信  
（株）南信州観光公社と連携した団体ツアーの誘致、チラシやホームページにより広報宣伝活動を行った。
- 3 小学校児童クラブでの子どもたちへの伝承  
和田小学校の児童クラブを指導・支援して、山藤の採取から糸を紡ぎ織る体験により文化の伝承に取り組むとともに、子どもたちの郷土愛を育む活動を支援した。



【和田小学校での伝承活動】

### 事業効果

- ・ 大人数の受入体制を整備することで、体験民泊 26 名、日帰り体験 30 名、それぞれ複数の団体客を受け入れることができた。また、県外リピーター客も増加する等、滞在型観光の定着に寄与した。
- ・ 山藤の採取、糸紡ぎ、工芸品製作など藤糸の文化伝承への取組が進むとともに、高齢者の生きがいづくりの場として機能した。
- ・ 子どもたちの希望により、小学校児童クラブ活動の継続が決まった。



【藤糸織り体験を楽しむ観光客】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・ 小学校からの要請により、子どもたちが地域文化に触れ、地域の良さを再発見できるよう引き続きクラブ活動を指導・支援していく。
- ・ これまで制作・整備したホームページ、リーフレット、ポスター、織り機等を活用し、今後も伝統文化の継承に取り組むとともに、運営自立に向け観光客の受け入れを積極的に実施していく。

**【選定のポイント】**  
地域のシニア世代を巻き込んだ一連の活動、団体ツアーの呼び込みが実を結び、伝統文化の継承としての成果だけでなく、県外リピーター客の申し込み等体験者が増加し、滞在型観光の定着としても一定の成果があった。

団体名	一般財団法人 南信濃振興公社（飯田市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0260-34-1131	事業費	908,388円
ホームページ	<a href="https://fujiiitonokai.jimdo.com/">https://fujiiitonokai.jimdo.com/</a>	支援金額	662,000円

## 南信州お仕事キッズタウン事業

### 取組に至る背景・事業の目的

子どもたちが地域の職業体験ができる場は限られており、職場見学やアルバイト等、中学生からのキャリア教育としての機会しかない。「南信州お仕事キッズタウン」を開催することで、子どもたちが幼少期のうちから、地域の仕事を体験し、知ってもらうこと。また、多くの大人達と触れ合うことで、将来南信州地域で働きたい、この地域に居続けたいという地域愛を育むきっかけづくりを目的とする。

昨年度までは飯田青年会議所主催であったが、地元住民の目線を取り入れつつ、市民団体として事業を実施する。

### 事業内容

- ・「南信州お仕事キッズタウン」の実施  
開催日時 平成 29 年 9 月 10 日 (日)  
開催場所 南信州・飯田産業センター  
開催規模 来場者 : 子ども 1,000 人規模、  
保護者含め 2,000 人程度  
参加企業 : 地元企業を中心に 50~60 社



【金融のお仕事体験の様子】

### 事業効果

- ・チラシ・ポスターの配布による広報や、参加企業募集の声掛けを積極的に実施した結果、開催規模を拡大させることができた。  
小学生以下の来場者 H28 : 975 人 H29 : 1,042 人 (106.9%)  
参加企業 (団体) 数 H28 : 45 社 H29 : 55 社 (10 社増)
- ・実行委員会形式で活動を展開し、各会合で参画の依頼を行ってきた結果、多くの地域住民が活動に賛同し、会員を増やすことができた。  
活動参画メンバー数 H29 当初 : 16 名 H29 末時点 : 約 50 名



【消防のお仕事体験の様子】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・立ち上げた実行委員会等の構造を精査し、効率的に理想の事業が行えるように変えていく。円滑な運営が行えるよう、昨年行なったプロセスを整理し、誰にでもわかり易く、運営できるようなマニュアルを作成しメンバーが自主的に動けるように準備を整える。
- ・地域のお仕事の多様性を伝えるため、新規出展企業を増やすことで、より多分野のお仕事体験を揃え、充実させていく。また、展示の見せ方の工夫や、出展企業向けの勉強会等、体験の質を上げるための取組を実施していく。

#### 【選定のポイント】

地元企業と協働したお仕事体験を通じて、多くの子どもたちが南信州地域のお仕事を体験し、理解を深めるきっかけとなった。参画団体の増加だけでなく、体験メニューの組み替えの検討に着手する等、事業の発展が期待できる。

団体名 南信州青少年育成プロジェクト (飯田市)	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0265-23-7875	事業費 1,179,582円
メールアドレス oshigoto.kidstown@gmail.com	支援金額 526,000円

## 澤田正春・澤頭修自 写真展開催事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- 本実行委員会のメンバーである木曽路美術館は、木曽を訪れる方々に上質な芸術作品の鑑賞の場を提供し、木曽の芸術文化の一里塚でありたいという願いが込められ設立された経過がある。また一般にその功績を知られていない木曽出身の優れた芸術家や、木曽にゆかりのある芸術家の紹介を目指し、調査研究・情報収集を行っている。
- 木曽地域では芸術や文化に触れる機会、発信する機会がまだまだ少ない状況にあるため、木曽の文化振興を図るきっかけを作るとともに、木曽の魅力を発信することを本事業の目的にしている。
- 本事業は、昭和の時代から撮りためてきた澤田正春氏と澤頭修自氏の木曽にゆかりのある写真を紹介し、広めていきたいという地元の要望から計画した。

### 事業内容

- 60年代木曽路ブームの火付け役である澤田正春氏の写真と、木祖村在住の元教諭であり木祖村史編纂室長であった澤頭修自氏の写真を木曽郡内4か所、県外2か所で展示した。
- オープニングイベントとして10月14日に木曽町の御料館において澤頭氏による「あの頃の木曽町を振り返り」をテーマにトークショーを行った。
- また、10月22日には木曽路美術館においてプロの写真家である池田昌広氏によるワークショップ「写真を観る」を開催し、講評をメインに写真を観るということについて考えた。



【講演会の様子】

### 事業効果

- 写真展を木曽の紅葉シーズンに郡内および郡外で開催したことにより、より多くの人に向けてアピールすることができ、総来場者数2,500人を達成することができた。
- 地域に眠る文化資源を活用することができたとともに、地域の新たな魅力の発見につながった。
- 官民を問わない文化施設との連携により、相互協力のもと、事業を展開させることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地域住民に大変好評だった。今回は、郡内4町村で開催したので、今後は郡内全域に広げて活動していきたい。
- 広域的につながりのある当企画を今後も継続するため、エリア内の各地を巡る楽しみを加えることで、多くの方々の参画を得て観光資源として活用し、経済効果の創出を目指したい。
- 今後も木曽地域における貴重な文化芸術資源を調査活用し、後世へとつないでいくため、地域の人や郡外の人々により広く認知されるための展示等を行っていく。

#### 【選定のポイント】

地域外の会場で開催したり、撮影者による講演会やプロカメラマンによるワークショップも交えたりするなど、住民が芸術文化に親しむ工夫をしている。地域の貴重な文化財として保全された写真が、今後も広く活用されることが期待できる点などを評価した。

<p>団体名 木曽地域文化芸術資源活用実行委員会 (上松町)</p> <p>連絡先 0264-24-0116</p> <p>メールアドレス kisoji@basil.ocn.ne.jp</p>	<p>事業タイプ ソフト事業</p> <p>事業費 1,837,570円</p> <p>支援金額 1,470,000円</p>
--	---



## スポーツ吹矢式呼吸法で シニア・視覚・聴覚・身体障がい者の皆さんに元気を

### 取組に至る背景・事業の目的

定年等で第一線を退き、何もせずに引きこもりがちなシニア世代、視覚・聴覚・身体障がい者の皆さんに、スポーツ吹矢式呼吸法でスポーツ吹矢を楽しんでいただき、仲間づくりや元気の出る活動をする。

### 事業内容

- 音の出る的を作成して、視覚障がい者の皆さんがスポーツ吹矢を体験  
松本盲学校生徒、教師、一般視覚障がい者 53人参加
- 松本ろう学校で体験会を実施  
生徒、教師 15人参加
- 会田中学校、信明中学校で体験教室を実施  
呼吸法による精神統一も学んだ。  
生徒 80人参加
- 松本市民スポーツ吹矢大会の開催  
4月、9月 2回開催 155人参加
- 松本市内7公民館、木曽郡内の2公民館で体験会を実施  
42回実施 合計 372人参加
- 初心者向け教室を開催  
スポーツ吹矢呼吸法、鼻呼吸の大切さ、のどを鍛えることで  
誤嚥予防になることを学んだ。  
5回開催 55人参加
- スポーツ吹矢 20R レース大会の開催  
43人参加



### 事業効果

- 音の出る的を作成し、視覚障がい者もスポーツ吹矢ができることが実証できた。
- 初めての方にも楽しく体験していただき、スポーツ吹矢呼吸法を実践していただいた。日頃、呼吸が浅い方から、良い体験ができたと言っていた。
- 事業開始から終了の平成30年2月23日までのスポーツ吹矢呼吸法の体験者の目標150人を大きく上回る768人の参加者があった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

視覚障がい者の方でもスポーツ吹矢を楽しめることを目標に、四方からブザー音が出る仕組み、LEDの光を利用した的と筒を制作し、視覚障がい者の方の意見を取り入れ、改良した。

視覚障がい者の皆さんとスポーツ吹矢大会を開催する目標を立てているが、なかなか実現できない。実現できるように活動していきたい。

聴覚障がい者の皆さんと大会等でコミュニケーションができるよう手話の勉強会をしていきたいが、会員は高齢者が多く、覚えられないのが現実である。

### 【選定のポイント】

障がいの有無に関わらず、幅広い層を対象にスポーツ吹矢の有用性を健康づくりの側面から広めた。また、特に視覚障がい者に対して「音の出る的」を独自に作成し、参加を促した点を高く評価する。

団体名	一般社団法人 日本スポーツ吹矢協会 松本アルプス支部 (松本市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	支部長 鈴木 健一	事業費	429,534円
メールアドレス	suzukiken1@wj8.so-net.ne.jp	支援金額	342,000円

## 特別企画「信州ゆかりの現代作家」展

### 取組に至る背景・事業の目的

アートミュージアム・まどは、地域で活躍する作家の発表の場として、また、地方ではあまり接することのできない中央で活躍する有名作家の作品展示の場として、美術館のない中野市において、地域の文化芸術の振興を担ってきた。

今回、開館 10 周年を迎えるのを機に、県在住又は出身者で、中央で活躍している作家 5 名の作品を展示する「信州ゆかりの現代作家展」と、実際に作家を集めて作品のコンセプト等について語ってもらう「ギャラリートーク」を開催することによって、作家との交流さらには文化芸術について考える場となるよう企画したものである。

### 事業内容

- 県在住又は出身者で、中央で活躍している作家 5 名の大作を含め 21 点、小品 15 点のタブローを展示する特別企画展。
- 作家 5 人にそれぞれ自作についての想い、造形作業の方法、現代絵画観等を説明してもらうギャラリートークの開催
- 講師による、現代の作品に至る軌跡や視点についての講演会
- 作家 5 名による高校美術部員に対する作品合評会



【高校美術部員に対する作品合評会の様子】

### 事業効果

- ・特別企画展は、期間中の目標である来場者 500 名を達成。
- ・ギャラリートークは、会場が満席（50 名定員）となり、ほかに学生や美術教師等含め 70 数名となり大盛況であった。
- ・講演会は、活発な質疑応答が行われ、予定時間をオーバーするなど、参加者の関心の高さがうかがえた。
- ・今回、作家 5 名の協力を得て実現した、北信の高校美術部員の作品の合評会は、中央で活躍する作家から直接講評、指導を受ける貴重な機会となり、生徒の今後の創作活動に資することはもちろん、美術教師からは、来年度実施を継続されるなど有意義なものとなった。



### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も北信地域での文化的イベントに場を提供し、積極的に文化活動の発信に努めていきたい。

特に、高校美術部員への合評会は好評だったため、今後開催を検討していくほか、各高校美術部と交流を図り、生徒の作品展の開催に繋げるなど、積極的に支援していきたい。

#### 【選定のポイント】

地元高校美術部員等への作品合評会は、中央で活躍する信州ゆかりの作家陣と交流し、その指導を受けられる貴重な機会となり、今後の文化芸術活動を担う人材育成に高い効果が得られた。

団体名	NPO法人アートミュージアム・まど (中野市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局 0269-22-4033	事業費	798千円
ホームページ	<a href="http://artmado.com/">http://artmado.com/</a>	支援金額	607千円